

情報通信審議会 情報通信技術分科会
携帯電話等高度化委員会
700/900MHz帯移動通信システム作業班（第11回） 議事要旨（案）

1 日時

平成23年9月21日(水) 14:00~15:30

2 場所

中央合同庁舎第2号館(総務省) 8階 第1特別会議室

3 出席者(敬称略)

作業班構成員:

若尾 正義	(社)電波産業会
石田 和人	クアルコムジャパン(株)
伊藤 健司	ノキアシーメンスネットワークス(株)
上杉 浩之	日本電気(株)
大津山 卓哉	(独)電子航法研究所
木津 雅文	トヨタ自動車(株) (代理:田村 雅信)
小林 明	(社)電子情報技術産業協会
菅田 明則	KDDI(株)
杉本 明久	(社)日本CATV技術協会
杉山 博史	(財)移動無線センター (代理:鈴木 淳)
高田 仁	(社)日本民間放送連盟
田中 伸一	ソフトバンクモバイル(株)
谷口 正樹	富士通(株)
土居 義晴	三洋電機(株)
中川 永伸	(財)テレコムエンジニアリングセンター
中津川 征士	日本電信電話(株)
中原 俊二	日本放送協会
浜名 康広	(財)日本移動通信システム協会
古川 憲志	(株)NTTドコモ
細野 清文	(株)ウィルコム (代理:横田 純也)
牧野 鉄雄	日本テレビ放送網(株) (代理:片柳 幸夫)
諸橋 知雄	イー・アクセス(株) (代理:福本 史郎)
山本 裕彦	シャープ(株)
要海 敏和	UQコミュニケーションズ(株) (代理:伊藤 泰成)

作業班に必要と認められる者

上田 隆	(株)NTTドコモ
野原 光夫	KDDI(株)
川瀬 克行	パナソニックSSインフラシステム(株)
白石 和久	パナソニックシステムソリューションズジャパン(株)

事務局:

総務省 総合通信基盤局 電波部 移動通信課長 田原、同課 課長補佐 中越、同課
 第二技術係長 松元、同課 第二技術係 小池

4 配布資料

資料番号	配布資料	提出元
資料700/900移11-1	700/900MHz帯移動通信システム作業班(第10回)議事要旨(案)	事務局
資料700/900移11-2	900MHz帯MCAシステムの周波数移行に伴う周波数共用技術に関する調査検討 中間報告(概要版)	パナソニックSS インフラシステム
資料700/900移11-3	920MHz帯及び950MHz帯電子タグシステムの周波数有効利用方策に関する調査検討 中間報告(概要版)	パナソニックシステムソリューションズジャパン
資料700/900移11-4	地上デジタルテレビジョン放送からLTEへの干渉軽減技術に関する調査検討 途中経過報告	KDDI
資料700/900移11-5	700MHz帯における携帯電話システムと地上テレビジョン放送システムとの間の電波干渉評価に関する調査検討 中間報告	NTTドコモ
参考1	700/900MHz 帯移動通信システム作業班 構成員	事務局
参考2	700/900MHz 帯における干渉検討の状況	事務局

5 議事概要

(1) 前回議事要旨について

前回議事要旨(案)(資料700/900移11-1)は、作業班構成員に事前に送付されていることから読み上げは省略して配付のみとし、気づきの点があれば、9月27日(火)までに事務局まで知らせることとなった。(その後、修正意見等は特になかった。)

(2) 干渉検討の状況について

ア MCAと携帯電話との干渉検討に係る実証実験

パナソニックSSインフラシステム 川瀬氏から、資料700/900移11-2に基づいて、MCAと携帯電話との干渉検討に係る実証実験の状況について説明があった。

イ RFIDと携帯電話との干渉検討に係る実証実験

パナソニックシステムソリューションズジャパン 白石氏から、資料81-700/900移11-3に基づいて、RFIDと携帯電話との干渉検討に係る実証実験の状況について説明があった。

ウ 地上デジタルTV放送から携帯電話への干渉検討に係る実証実験

KDDI 野原氏から、資料700/900移11-4に基づいて、地上デジタルTV放送から携帯電話への干渉検討に係る実証実験の状況について説明があり、その後次のとおり質疑応答があった。

若尾主任：ここで検討されているフィルタは実際に使われているフィルタとは異なるものなのか。

野原氏：今回検討しているフィルタは、携帯電話の帯域へのスプリアスを低減するフィルタとなっている。一方、実際に使われているフィルタは送信マスクのみを満たすフィルタである。

エ 携帯電話から地上デジタルTV放送への干渉に係る実証実験

古川構成員から、資料81-700/900移11-5に基づいて、携帯電話から地上デジタルTV放送への干渉に係る実証実験の状況について説明があり、その後次のとおり質疑応答があった。

若尾主任：米国製のフィルタの特性は、机上検討の際の特性とは異なるのか。

古川構成員：机上検討を行ったときは、フィルタの特性まで加味しているものではなく、ある程度落とせるという見込みで検討を行ったものである。

若尾主任：今試作しているフィルタは、机上検討のスペックなどを加味して作っているのか。

上田氏：試作しているフィルタは、テレビ放送の帯域がガードバンド8MHzのところにあるということで作っており、スペックで言えば25dBくらい落とせるものである。Band12のフィルタだと、12dB程度落とせる。

中原氏：P13と14の結果を見ると、電力の影響が効いてくるのかと思うが、フィルタを挿入して改善できるのか

上田氏：8MHz離れているテレビ放送のチャンネル6MHz幅のうち、高い帯域は電力が大きく低い帯域は小さくなる特性となっているため、どのような影響がテレビにあるか注意しながら実験を進めていきたい。

菅田構成員：P12に、LTEの上り信号RB数1の場合とRB数75の場合とあるが、RB数1を考慮しているのはどのような趣旨か。

上田氏：LTEの場合RB数が少ない方が電力密度が高くなるため、RB数1の方が、テレビ放送帯域への影響が大きくなる。逆にRB数75の方は電力密度は下がるため、特定チャンネルに与える影響は小さくなる。

菅田構成員：トータルの電力で考えた場合、どちらの場合も影響は同様になるかと思うが、電力密度が高い方が影響は大きいのか。

上田氏：携帯側のトータルのスプリアスは変わらないが、テレビ放送のチャンネル6MHz幅に落ち込むスプリアスを考慮した場合、少ないRB数からのスプリアスが、特定のテレビのチャンネルに落ち込む時が最悪条件だと考えている。

土居構成員：P14で、ブースタが増幅する周波数の範囲はどの程度か。

小林構成員：ブースタ自体は770MHzまでの周波数を増幅するものである。機種によっては、770MHz以上も増幅するものもある。

片柳(牧野構成員)代理：P7などに「TV受像機にブロックノイズが発生しないLTE信号のレベルを求める。」といった記述があり若干曖昧な印象を受けるが、何か基準があるのか。

上田氏：20秒間でブロックノイズが発生しないという条件で行っている。昨年度の検討で行った簡易実験でも同様の基準を用いている。

古川構成員：以前、ITS作業班で700MHz帯のITSとTVとの干渉検討を行った際にもこの方法を用いていると認識している。

(3) その他

事務局から、次回作業班については未定であり、主任と相談の上、別途連絡されることが連絡された。

以上